

電力系統接続に関する自治体向け説明会(2023.1.17~19)にいただいた主なご意見と当社回答

資料「基幹系統への再給電方式の導入について」へのご意見

No.	ご意見・お問い合わせ	回答
1	家畜糞尿を用いたバイオガス発電は、再給電方式（一定の順序）の出力制御順（資料9ページ）において①から⑤のどれに該当するのか。	出力制御困難な地域資源バイオマスに該当する場合は⑤、それ以外は③に該当します。
2	再給電方式（一定の順序）の対象が高圧まで拡大したが、いつから導入されるのか。	再給電方式（一定の順序）は、2023年12月末までに導入予定です。
3	再給電方式は自治体の事業に限らず、民間事業者も対象である認識で良いか。	ご認識のとおり自治体様の事業に限らず、民間事業者様も対象です。

資料「ノンファーム型接続のローカル系統への適用拡大について」へのご意見

No.	ご意見・お問い合わせ	回答
4	ノンファーム型接続のローカル系統への適用が拡大されたところだが、新規発電所の接続等が容易になった認識でよいか。	ノンファーム型接続のローカル系統への適用拡大により、連系に伴うローカル系統の増強は不要となることから、接続面においては容易になったものと考えます。
5	接続検討の申込先を教えてください。	接続検討のお申込先は以下のとおりです。 ・FIT 電力受給センター電源グループ 特別高圧：1uke@hepco.co.jp 高圧：2uke@hepco.co.jp ・FIT以外（FIPもこちらに含まれます。） 託送サービスセンター高圧グループ 特別高圧・高圧：dengen-nsc@hepco.co.jp
6	ローカル系統におけるノンファーム型接続の適用条件を教えてください。	国の審議会※において、国から移行期間の取扱いが示されており、以下の条件を全て満たしていない電源はローカル系統に対するノンファーム型接続の適用電源として取扱うこととなります。 <接続検討がある特別高圧・高圧連系の電源> ・当社にて2023年1月末までに接続検討申込書類を受領 ・当社にて2023年3月末までに接続検討申込を受付 ・契約申込時点で連系先の基幹系統およびローカル系統に空き容量がある <接続検討がない低圧連系の電源（10kW未満の電源を除く）> ・当社にて2023年3月末までに契約申込を受付 ・契約申込時点で連系先の基幹系統およびローカル系統に空き容量がある なお、2023年4月1日以降に接続検討の受付を行った案件については、連系先の電圧階級や空き容量の有無に関わらず、原則としてノンファーム型接続適用電源となります。 ※第46回総合資源エネルギー調査会省エネルギー・新エネルギー分科会／電力・ガス事業分科会再生可能エネルギー大量導入・次世代電力ネットワーク小委員会（2022年11月15日）
7	系統空き容量マップ（110kV以下系統）を確認したら、全て青色（空き容量なし）であった。全てのローカル系統において空き容量がないのか。	ローカル系統の上位の基幹系統に空き容量がない場合、ローカル系統全体を青色で表示しております。ローカル系統における個別の空き容量は下記弊社ホームページにて公表しております空き容量一覧表（ こちら ）をご覧ください。

8	<p>事業を計画している系統の空き容量を知りたいが、参照先を教えてください。</p>	<p>系統空き容量情報は弊社ホームページにてご確認ください。 基幹系統（187kV以上）はこちらをご覧ください。 ローカル系統（110kV以下系統）はこちらをご覧ください。</p>
9	<p>「同一ローカル系統に多数の適用電源が連系した場合、当該ローカル系統が混雑し、適用電源の出力制御が増加する課題があり、そのため、増強による便益が費用を上回るローカル系統については、当社にてプッシュ型での増強を実施します。」（資料9ページ）とあるが、どのような場合、増強の対象になるのか。</p>	<p>設備増強の有無は費用便益評価により判定を行います。費用便益評価とは、増強費用と、増強により再エネの出力抑制を回避することで発生する燃料コスト・CO2対策コスト削減等による便益を比較し、便益が費用を上回るか否かを確認する評価方法です。混雑系統にて出力抑制が起これば、非混雑系統の電源の出力を上げなくてはならず、その際、混雑系統の燃料コストが安く（再エネ等）、非混雑系統の燃料コストが高い場合（火力等）、混雑により燃料コストが増大することになり、CO2対策コストにも影響します。このため、電源の配置や増強コストにより、設備増強の有無が判定されます。</p>